

# 第 11 期 第 1 四半期報告書

(平成 16 年 7 月 1 日から平成 16 年 9 月 30 日まで)



平成 16 年 10 月 26 日

## 株式会社 旅籠屋

---

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
コード番号	4807
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

---

## 四半期の業績

### (1) 損益計算書 (単位: 千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別		前年度	前年度	前年度	前年度	当年度	前年同期比
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第1四半期		
	H15.7.1~ H15.9.30	H15.10.1~ H15.12.31	H16.1.1~ H16.3.31	H16.4.1~ H16.6.30	H16.7.1~ H16.9.30	H16.7.1~ H16.9.30		
営業収益								
売上高	70,824	43,880	44,608	45,599	88,860		+25.5%	
営業費用								
売上原価	39,449	43,052	35,522	45,798	54,637		+38.3%	
販売費及び一般管理費	9,016	8,878	9,571	9,098	10,258		+13.8%	
営業利益または営業損失( )	22,359	8,049	484	9,297	23,965		+7.2%	
営業外収益	1,961	511	166	88	136		93.1%	
営業外費用	1,577	1,497	1,989	1,413	1,535		2.7%	
経常利益または経常損失( )	22,743	9,034	2,307	10,621	22,566		0.8%	
特別利益	-	-	-	-	-		-	
特別損失	379	514	-	4	-		-	
税引前四半期(当期)純利益または純損失( )	22,363	9,548	2,307	10,617	22,566		+0.9%	
法人税、住民税及び事業税	-	531	-	531	265		-	
四半期(当期)純利益または純損失( )	22,363	10,079	2,307	11,148	22,300		0.3%	
前四半期繰越損益	151,766	129,403	139,482	141,790	152,939		0.8%	
四半期(当期)未処分利益または純損失( )	129,403	139,482	141,790	152,939	130,639		1.0%	

期中平均株式数	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	-
1株当たり当期純利益または純損失( )	3,979円	1,793円	410円	1,983円	3,968円	-
潜在株式調整後1株当たり当期純利益(注1)	3,833円	-	-	-	3,697円	-

(注1) 前年度第2・第3・第4四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

### (2) 部門別内訳 (単位: 千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

部門	期別		前年度	前年度	前年度	前年度	当年度	前年同期比
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第1四半期		
	H15.7.1~ H15.9.30	H15.10.1~ H15.12.31	H16.1.1~ H16.3.31	H16.4.1~ H16.6.30	H16.7.1~ H16.9.30	H16.7.1~ H16.9.30		
本社	売上高	461	1,006	2,286	329	457	0.9%	
	経常損益	7,251	8,436	8,195	9,197	10,296	42.0%	
鬼怒川店	売上高	14,710	8,583	8,321	7,271	15,232	+3.5%	
	経常損益	6,631	324	1,983	721	5,829	12.1%	
	客室稼働率	69.3%	53.5%	53.3%	43.0%	66.7%	2.6p	
那須店	売上高	11,245	5,868	5,997	6,090	11,737	+4.4%	
	経常損益	5,525	489	1,256	362	5,323	3.7%	
	客室稼働率	81.1%	58.5%	55.4%	64.0%	84.5%	+3.4p	
秋田六郷店	売上高	5,911	3,897	3,085	4,724	6,325	+7.0%	
	経常損益	1,424	998	878	222	1,591	+11.7%	
	客室稼働率	62.5%	51.6%	43.0%	61.2%	66.8%	+4.3p	
山中湖店	売上高	14,755	8,338	8,138	8,490	14,561	1.3%	
	経常損益	7,882	808	2,326	1,574	7,298	7.4%	
	客室稼働率	91.4%	69.8%	64.1%	76.1%	88.8%	2.6p	
沼田店	売上高	8,753	7,011	7,694	6,180	8,770	+0.2%	
	経常損益	3,233	1,104	2,251	264	2,641	18.3%	
	客室稼働率	85.7%	85.6%	88.3%	76.4%	85.4%	0.3p	
水戸大洗店	売上高	9,427	6,082	6,188	6,044	10,311	+9.4%	
	経常損益	4,351	282	933	339	4,424	+1.7%	
	客室稼働率	80.5%	72.2%	72.3%	73.4%	85.0%	+4.5p	
北上店	売上高	5,558	3,093	2,894	3,532	6,187	+11.3%	
	経常損益	946	2,023	1,564	1,522	1,287	+36.0%	
	客室稼働率	54.1%	35.3%	35.6%	38.4%	57.6%	+3.5p	
仙台亘理店	売上高	-	-	-	2,936	6,826	-	
	経常損益	-	21	378	1,523	1,335	-	
	客室稼働率	-	-	-	52.7%	72.5%	-	
小淵沢店	売上高	-	-	-	-	8,449	-	
	経常損益	-	-	43	418	3,131	-	
	客室稼働率	-	-	-	-	77.7%	-	
全社合計	売上高	70,824	43,880	44,608	45,599	88,860	+25.5%	
	経常損益	22,743	9,034	2,307	10,621	22,566	0.8%	
	客室稼働率	74.9%	60.6%	58.5%	60.0%	75.7%	+0.8p	

### (3) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目		期別	前年度	前年度	前年度	前年度	当年度
			第1四半期末 H15.9.30	第2四半期末 H15.12.31	第3四半期末 H16.3.31	第4四半期末 H16.6.30	第1四半期末 H16.9.30
<b>(資産の部)</b>	流動資産						
	現金預金		30,787	28,534	19,915	9,164	9,754
	その他		4,346	5,306	4,888	6,273	6,689
	流動資産合計		35,134	33,841	24,803	15,437	16,443
	固定資産						
	有形固定資産		385,254	381,183	388,543	382,841	383,890
	無形固定資産		2,163	2,166	1,997	1,828	1,681
投資その他の資産		15,405	17,162	18,935	19,017	18,900	
固定資産合計		402,823	400,511	409,476	403,687	404,472	
資産合計		437,957	434,352	434,280	419,125	420,916	
<b>(負債の部)</b>	流動負債		4,519	8,929	24,421	67,745	47,307
	固定負債		262,641	264,706	251,450	204,119	204,048
	負債合計		267,161	273,635	275,871	271,865	251,355
<b>(資本の部)</b>	資本金		281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
	資本剰余金						
	資本準備金		19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
	利益剰余金						
	四半期(当期)未処分利益または損失( )		129,403	139,482	141,790	152,939	130,639
	資本合計		170,796	160,717	158,409	147,260	169,560
負債資本合計		437,957	434,352	434,280	419,125	420,916	
発行済株式総数		5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	
1株当たり純資産		30,390円	28,597円	28,186円	26,202円	30,170円	

### (4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法	各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
繰延資産の処理方法	各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
経過勘定項目	未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しています。
賞与の計上基準	6～9月の売上高の5%相当額を12月支給予定の賞与未払費用として計上しています。
税金の計上基準	法人税、住民税および事業税の年間見積り額の4分の1相当額を計上しています。
消費税等の会計処理	仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

なお、当該四半期の貸借対照表および損益計算書については、公認会計士の監査を受けておりません。

### (5) 重要な会計方針

#### 1. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下の通りです。

建物：17～18年、構築物：15～20年、車両運搬具：4～6年、工具器具備品：3～8年

##### (2) 無形固定資産

定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しています。

##### (3) 長期前払費用

定額法を採用しています。なお、期間内均等償却によっています。

#### 2. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

#### 3. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

## 第11期第1四半期（平成16年7月1日～平成16年9月30日）の業績の概況

### (1) 本社

経常損失が3,045千円増加しましたが、これはスタッフの1名増員による人件費の増加と、営業外収益の減少（前期は、社有車の買い替えにともない1,959千円の寄付を受けた）によるものです。

### (2) 鬼怒川店

利用者の漸減傾向（ビジネス客が減少、ファミリー客は増加）が続いており、前期に比べ稼働率が減少（69.3→66.7%）しましたが、客室単価が上がった影響で売上高は増加（+3.5%）しました。

### (3) 那須店

稼働率（81.1→84.5%）売上高（+4.4%）ともに前期を上回り、好調が続いています。

### (4) 秋田六郷店

前期に比べ、稼働率（62.5→66.8%）売上高（+7.0%）ともに増加しました。

### (5) 山中湖店

稼働率（91.4→88.8%）売上高（-1.3%）ともに前期を下回りましたが、稼働率が高い状態での減少ですので、限界点近くでの変動と考えられます。

### (6) 沼田店

稼働率（85.7→85.4%）売上高（+0.2%）ともに、ほぼ前期と同じであり、好調を維持しています。

### (7) 水戸大洗店

稼働率（80.5→85.0%）売上高（+9.4%）ともに前期を上回り、きわめて好調です。

### (8) 北上店

稼働率（54.1→57.6%）売上高（+11.3%）ともに前期を上回りましたが、低い水準にとどまっています。

### (9) 仙台亘理店

4月にオープンしたばかりですが、稼働率が72.5%と順調なスタートを切っています。

### (10) 小淵沢店

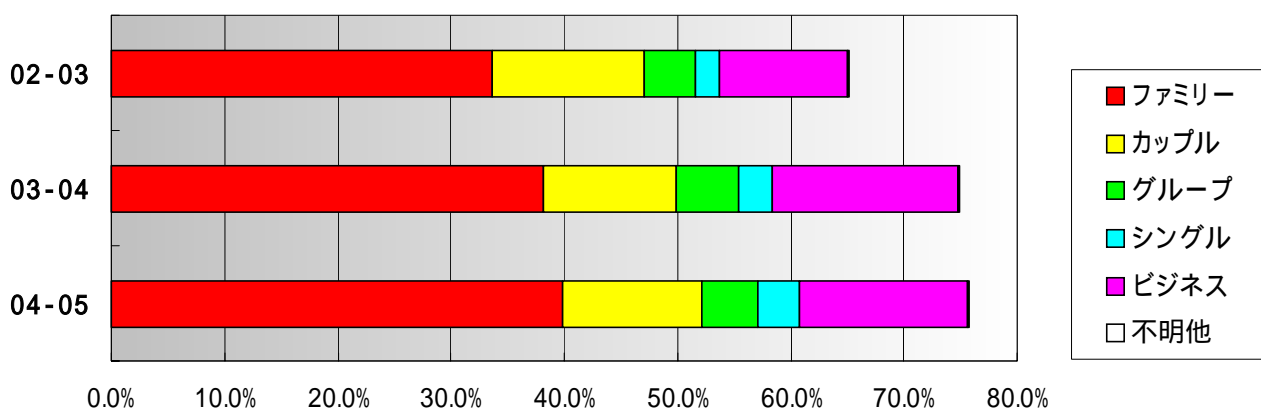
オープン直後ながら、夏休みは以後もビジネス客が定着しつつあり、稼働率も77.7%となっています。

### (11) 全社

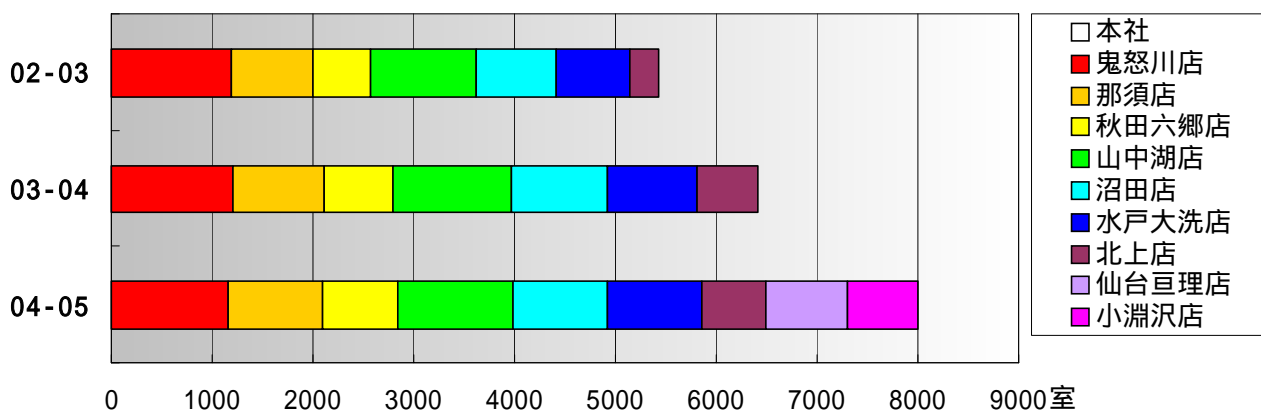
既存店では、稼働率が85%前後に達している店舗（山中湖店、沼田店、水戸大洗店、那須店）と、60%前後の店舗（秋田六郷店、鬼怒川店、北上店）に分かれています。秋以降、前者の好調を維持し、後者の集客を増やすことが課題となります。新規店舗（仙台亘理店、小淵沢店）は70%を超え、いずれも上々のすべり出しです。今後、固定客を着実に増やして初年度から確実に利益を計上できるよう実績を伸ばして行きたいと考えています。

なお、今期より、発生主義を厳密に適用し、賞与（金額は売上高に定率で連動、12月と6月に支給）や法人税などの支払い予想額を四半期ごとに計上しています。これにより、売上高の伸びに関わらず経常損益や税引き後損益が前期並みにとどまるなどの影響が生じておりますが、時期的に偏在する費用が平準化され、季節変動の要素が大きく減少することになります。

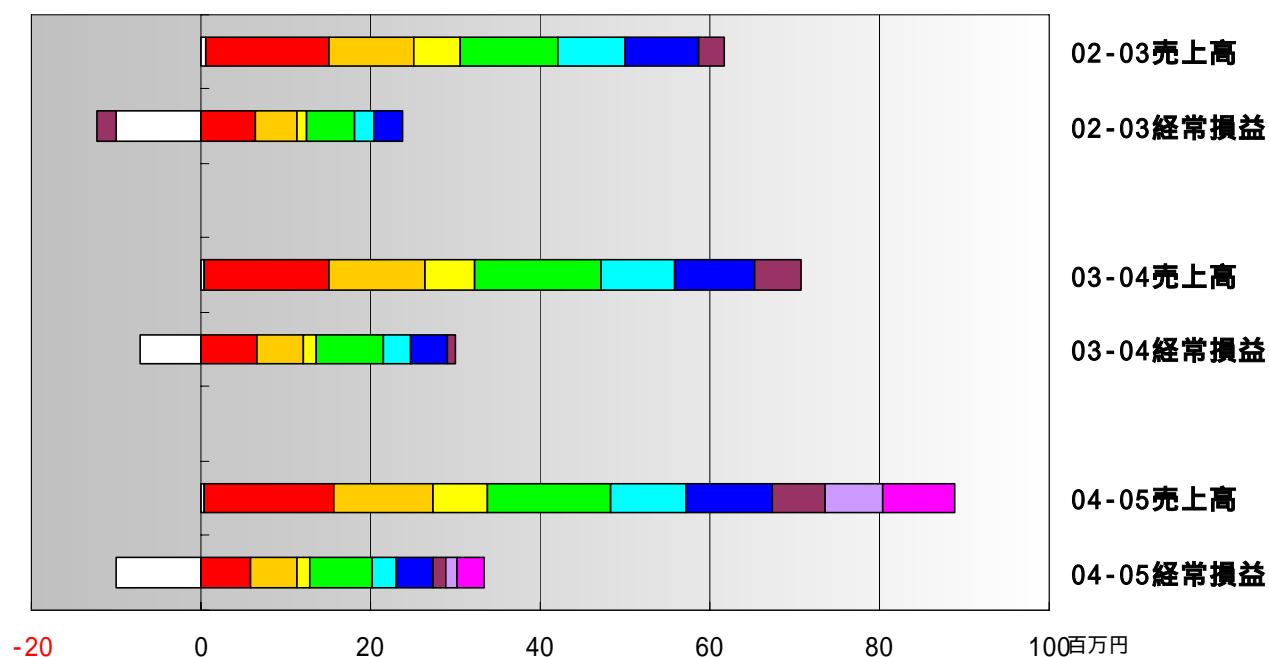
### 客室稼働率（全店通算、構成内訳）の推移（7/1～9/30）



### 利用客室数（全店合計、店舗別内訳）の推移（7/1～9/30）



### 売上高・経常損益（全社合計、部門別内訳）の推移（7/1～9/30）



## 第 11 期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第 10 期 実績 H15.7.1～ H16.6.30	第 11 期				通期予想 H16.7.1～ H17.6.30
		第 1 四半期 実績 H16.7.1-9.30	第 2 四半期 予想 H16.10.1-12.31	第 3 四半期 予想 H17.1.1-3.31	第 4 四半期 予想 H17.4.1-6.30	
売上高	204,913	88,860	53,140	50,000	51,000	243,000
経常損益	778	22,566	1,434	1,000	2,000	23,000
当期純損益	1,172	22,300	1,200	500	4,000	20,000

今年度中の新店舗のオープン時期が未定のため、上記の数値は既存 9 店舗の予想を積み上げたもので、新店舗の具体化により増減する可能性があります。新店舗の早期オープンによって、売上高 250,000 千円と当期純利益の上積みを目指しているところです。

## 資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第 10 期 第 2 四半期 H15.10.1～12.31	第 10 期 第 3 四半期 H16.1.1～3.31	第 10 期 第 4 四半期 H16.4.1～6.30	第 11 期 第 1 四半期 H16.7.1～9.30
現金および預金の増減額		2,253	8,619	10,751	590
現金および預金の四半期首残高		30,787	28,534	19,915	9,164
現金および預金の四半期末残高		28,534	19,915	9,164	9,754

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第 10 期 第 2 四半期 H15.10.1～12.31	第 10 期 第 3 四半期 H16.1.1～3.31	第 10 期 第 4 四半期 H16.4.1～6.30	第 11 期 第 1 四半期 H16.7.1～9.30
短期借入金の増減額		-	+ 20,000	0	20,000
短期借入金の四半期首残高		-	-	20,000	20,000
短期借入金の四半期末残高		-	20,000	20,000	0

短期借入金の減少は、東京シティ信用金庫からの短期運転資金借入れ20,000千円の返済によるものです。

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示) 1年以内返済予定額を含みます。

科目	期別	第 10 期 第 2 四半期 H15.10.1～12.31	第 10 期 第 3 四半期 H16.1.1～3.31	第 10 期 第 4 四半期 H16.4.1～6.30	第 11 期 第 1 四半期 H16.7.1～9.30
長期借入金の増減額		+ 2,470	12,444	6,698	3,223
長期借入金の四半期首残高		258,879	261,349	248,905	242,207
長期借入金の四半期末残高		261,349	248,905	242,207	238,984

借入金の減少は、三井住友銀行からの借入れ(低利融資への借替え時に行った8,323千円の借増し、9月融資実行)と約定返済の差額によるものです。

## 今後の事業展開と出店計画について

### 今後の出店計画

今期は、「小淵沢店」を含め3～5店舗の出店を目指しておりますが、現在、群馬県・静岡県・岩手県・茨城県などで交渉が進んでおります。首都圏から西への展開を優先させ、慎重に立地と時期を選びながら出店を具体化する計画です。なお、並行して、好立地に「所有直営店」を自社で出店し、一定期間営業後に「借上直営店」に変更する（売却・リースバック）方式を具体的に検討中です。これは「借上直営店」が土地オーナーの不動産活用に限定されるのに対し、広く一般的な資産活用の対象となるため、不動産投資ファンドへの組み込みや資産の証券化などにもつながる可能性を持ちます。大手不動産会社からの提案もあり、その出発点として、「山中湖店」の売却・リースバックを依頼しているところです。これが実現すれば、その売却資金をもとに好立地への出店を直接当社で行い、その繰り返しによって計画的な店舗展開を促進する予定です。

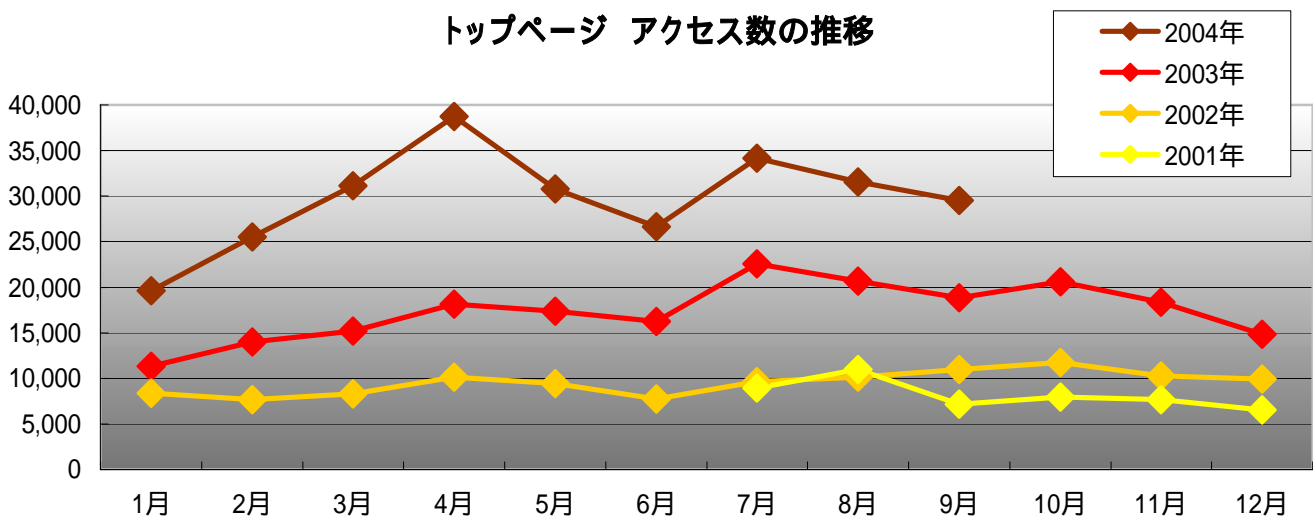
### 「道の駅」への出店を研究

国土交通省の定めるガイドラインに沿って、全国の主要道路に自治体主導による利便施設「道の駅」が多数誕生しています。これはロードサイドホテルに最適な立地であるため、「旅籠屋」出店の可能性について年内に具体的な調査と予備的な働きかけを開始する計画です。

### マイカー旅行をサポートするWEBサイト「ファミドラ」を年内に開設

「旅籠屋」のホームページは、下のグラフのとおり順調にアクセス数を伸ばしていますが、これとは別にマイカー旅行、お仕着せでない自由な旅、点ではなく面や時間を楽しむ旅、などをキーワードにした総合サイトを年内にもスタートさせる予定です。こうした旅は「旅籠屋」の基本コンセプトそのものであり、店舗の増加に並行してこうした情報サイトを開設し、潜在需要の掘り起こしを促進したいと考えています。これは、従来「旅籠屋」のサイト内にあった「無限リンク」を発展させるものですが、旅のポータルサイトのひとつとして広く認知され活用いただけるようあえて独立させ、間接的に「旅籠屋」の認知につながれば良いと割り切る考えです。具体的には、マイカー旅行者が求める情報を網羅するリンク集、旅のレポート集、イベント情報を軸に構成する計画です。ご期待ください。

トップページ アクセス数の推移



以上